

関連項目：教育活動プラン④

人とつながる喜びを味わう ～次への期待が高まる活動の工夫～

目的

本校の児童の中には、気の合う仲よし小集団で過ごすことを好み、進んで多くの他者に関わろうとしない者がいます。また、コミュニケーションのとり方が分からなかったり他者との関係をうまく構築できなかったりする児童もいます。そこで、意図的に他者と関わる場を設定し、他者とつながる喜びを味わわせることに留意し実践しました。

内容

● 異学年でのかかわり合い・・・異学年交流活動（色別活動）

◆活動の概要と願い

6年児童が中心となり「計画・準備」→「活動」→「振り返り」のサイクルを基本とし、はじめの一步の会、1年生を迎える会、運動会、なわとび大会、色別遊びなど年間を通し様々な活動を実施しました。

高学年児童は、自分のことだけを考えるのではなく、低学年児童の気持ちなどに心配りすることで学校のリーダーとして育て、あこがれの目で見られる上級生に、また、リーダーとしての責任感を持つよう期待しました。低学年児童には様々な活動を計画・実践してくれる高学年に感謝の気持ちを持ち、自分も高学年になったら全校生のために活躍したいという思いをもたせることを大切にしました。



＜ありがとうカード交換＞

◆児童の姿

今年度は特に「振り返り」活動を大切にしました。楽しかったことや反省点などをふり返ることで、次の活動への期待が高まりました。また、感謝の気持ちを「ありがとうカード」に書く活動を行いました。互いに渡し合うことで、カードをもらえた児童はやりがいを感じたり自尊感情が高まったりしました。感謝の気持ちを形に表すことの大切さを実感しています。

● 学級の仲間とのかかわり合い・・・たからものづくり

◆活動の概要と願い

自分の生活をよりよくするために「学校や学級の宝物をつくろう」を合言葉に、「あいさつ」「もくもく清掃」などに取り組みました。自分一人でなく友達とかかわりながら共に伸びていく集団への帰属意識を育てたいと考えたのです。

そのためにソーシャルワークも実施しました。



＜ソーシャルワーク＞

◆児童の姿

子どもたちは宝物をつくるための取り組みについて班内で繰り返し話し合いました。そして、友達と励まし合ったり喜び合ったりしながら、成長することやかかわりあうことの価値を実感しました。

● 地域や家庭とのつながり

◆活動の概要と願い

子どもと保護者がいっしょに学習する道徳授業を実施したり、人権便りを読んで保護者からメッセージをもらったりする活動を継続してきました。家族や地域の方とつながる活動を工夫することで、自分たちが多くの方に見守られ、育てていることに気付かせたいと考えました。

◆児童の姿

地域や家庭とのつながりを意識させることに留意した結果、子どもたちが保護者から愛されていることを実感し、児童の自尊感情が高まりました。

成果

以上のような取組をすることで、Q U検査等で児童の意識調査をした結果、学校生活に満足している児童の割合や学級の支持的雰囲気を感じている割合が昨年に比べ高くなっています。

また、たてわり活動では高学年児童が低学年を思いやる言動が見られました。今後、授業での学び合いも含め、「人とのつながり」という視点で活動を見直すことが大切だと考えます。